

令和元年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h4>1 一人一人の児童生徒の尊重</h4> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。</p>	<h4>2 友達への思いやり</h4> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<h4>3 道徳・心の教育の充実</h4> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------

【学校から】【1 一人一人の児童生徒の尊重】児童の「4」「3」の割合が昨年度より低くなっている。一人一人の児童の実態などに応じたより丁寧な対応を進めなければならない。【2 友達への思いやり】保護者・児童の「3」「4」の割合が昨年同様高い数値を残しているが、教職員の評価が下がっている。たくさんの友達と仲良くできていない実態がある。【3 道徳・心の教育の充実】昨年度同様、保護者の評価は高い。今後の「特別の教科道徳」についての啓発等に取り組んでいく。

②確かな学力を育む教育の推進

<h4>4 意欲的な学習態度</h4> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<h4>5 授業力向上</h4> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<h4>6 ICT活用</h4> <p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
-------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------

【学校から】【4 意欲的な学習態度】保護者・児童・教職員の「3」「4」評価の割合はほとんど変わらないが、「4」の割合で児童と教職員に大きな差が見られた。【6 ICT活用】タブレットが導入されて、ICT機器を授業で活用する時間が増加している。しかし、昨年度と比べて保護者・児童の伸びはあまりなかった。さらなる効果的な活用や授業参観時の活用を進め、保護者への啓発や授業の充実に努める。

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり

子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

【学校から】児童・保護者ともに昨年度と同じ評価となった。給食での残食量は減ってきているので、今後も学校全体を挙げて食育に取り組んでいく。また家庭との連携も推進していく。

<h3>①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実</h3> <h4>8 児童生徒理解</h4> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<h3>②特別支援教育の推進</h3> <h4>9 いじめや問題への対応</h4> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<h4>10 学校の支援体制</h4> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------

【学校から】【8 児童生徒理解】【9 いじめや問題への対応】保護者からの評価は昨年度とほとんど変わりがなかったが、児童の評価が少し下がる結果となった。教師が児童一人一人をしっかりと見つめ、よさを認めながら自尊感情を高める教育活動やいじめ等の問題に対しても家庭と連携した迅速な対応を更に進めていく必要がある。【10 学校の支援体制】保護者からの「3」「4」の評価が9割近くとなっている。今後も特別支援コーディネーターを中心とした教育相談体制を充実させ、保護者への啓発も進めていく。

①子どもたちの身近な安全対策の充実

②最適な学習環境の整備

11 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

【学校から】前年度に比べると保護者・児童の「3」「4」の割合が少し下がっている。今後も安全指導・安全管理の徹底や日常のケガや交通事故等の防止に努めていきたい。

12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

【学校から】今年度は前年度に比べると評価が少し落ちる結果となった。学校全体の施設が古くなっているため、毎月の安全点検の徹底と修理や補修等に地道に取り組み、安全な学校環境を整備・維持していきたい。

③家庭・地域社会との連携強化

13 教育方針・目標の理解

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

【学校から】【13 教育方針・目標の理解】昨年度より「3つの『あ』」の取組について全校児童が集まる機会に継続して呼びかけたり、キャンペーンに取り組んだりした結果、児童にも「あーちゃんず」が浸透して高い評価となっている。【14 家庭や地域との連携協力】保護者の「4」の評価が3ポイントではあるが上昇している。今後も家庭や地域を進め、地域に開かれ、ともに歩む学校づくりを推進していきたい。

14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

⑧本校の教育

15 託麻西小3つの「あ」<あいさつ>

子どもは、元気の良いあいさつをしていると思いますか。

16 託麻西小3つの「あ」<あいず>

子どもは、返事がきちんとできていると思いますか。

17 託麻西小3つの「あ」<あとしまつ>

子どもは、あとかたづけをしっかりとやっていると思いますか。

【学校から】3つの「あ」の取組では、特に「あいさつ」の項目で保護者・児童・教職員すべてで「4」「3」の評価が80%超え、昨年度より上昇している。挨拶については地域の方からも褒められており、さらに伸ばしていきたい。また、「あとしまつ」についての評価が低くなっている。これからも「凡事徹底」を目指して、家庭と連携した継続した指導を行い、定着できるように努めていきたい。

来年度の具体的な取り組みについて

- 「豊かな心を育む教育の推進」においては、他者を思いやる優しい心や生命尊重、挨拶や返事等の基本的な事柄について、日常的な指導を通して自己肯定感を高めていきたい。また道徳教育の充実については、児童の実態把握と教材研究を教師が深め、授業の質的変換を図り、考え議論する道徳の授業を展開していく。さらに、一人一人に目を向けた細やかな指導を心がけると共に、全職員・全保護者が連携を密に取りながら児童を育てていくという意識をより高めていく。
- 「確かな学力を育む教育の推進」においては、校内研修のテーマである「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」を実現できるような授業の工夫を継続して行う。全国学習状況調査や熊本市学力調査の結果では算数の落ち込みが大きかった。全職員で結果を詳しく分析し授業の改善に取り組み、特に落ち込んでいる領域の指導を繰り返して行き定着を図る。またタブレットが導入されたので、児童の学習意欲を高めるためにも日々の授業で活用していきたい。併せて電子黒板や実物投影機等のICT機器も効果的に活用し、児童の生き生きと学び合うことを支援していく。
- 「健やかな体を育む教育の推進」では、授業での運動量の確保や、遊具の整備、各種遊びの紹介、長縄大会・持久走大会、体育委員会によるドッジボール大会などで児童の意欲を高め、体力の向上に取り組んでいく。そして、学校保健委員会等を通して学校の取組を広め、保護者との連携を図る。
- 「いじめ・不登校などに対する相談支援体制の充実」においては、月に一度の「きずなアンケート」や日頃の授業等でアンテナを高くし、児童の問題に対して早期発見、早期対応をするという強い意識を全職員で共通して持ちながら児童が安心して過ごせる学校づくりに取り組んでいく。また、教職員が児童に関わる時間を見だし、出し、児童との対話などを深め、信頼関係を築いていく。個別の支援についても、教育相談を充実させ、全職員で情報共有をし、特別支援コーディネーターを中心に支援体制のさらなる確立に努める。
- 「子どもたちの身近な安全対策の充実」では、引き続き、確実な避難訓練の実施や安全教育の徹底を行う。また地域の防犯協会・交通安全協会・子ども会（旗振り）・ちよこっとパトロール隊などと連携して、登下校の安全確保を充実させていきたい。地震等の大規模災害を想定した「保護者への引渡し訓練」や防災頭巾を使った避難訓練等、実効性のある訓練を今後も継続して行っていく。
- 「家庭・地域社会との連携協力」においては、学校の教育方針や教育目標について、家庭や地域に学校便りや学級懇談会などで啓発してきたが、今後は学校ホームページや安心メール等をさらに活用し、分かりやすく発信していくように努める。また、学校から発信するだけでなく、家庭や地域からの声に真摯に対応し、理解と協力を得ながら取り組みを進めていく。

学校関係者評価

--